

## 都議会 曾根氏「審議に汚点」と批判

### 公明都議 反共質問に29分

日本共産党の曾根はじめを未然に防止するための抑止力を高めることが目的」東京都議は22日の都議会予算特別委員会で、公明党の中山信行都議が戦争法などで事実をゆがめて日本共産党を攻撃したことに反論し、「予算審議の場で長時間、他党攻撃を行うのは審議に汚点を残すものだ。政

争法と呼ぶことは、人種差別禁止法を人種差別法と呼ぶようなもの」などと曰ふようなもの」などと曰本共産党を攻撃しました。曾根氏は、「公明党が全国各地で使い古された共産党攻撃を行っているのは、安倍政権の暴走を説明できなくなっていること、野党と市民のみならず、野

党、議員の存在意義が厳しく問われる」と批判しました。中山氏は質問の持ち時間70分のうち29分を使い、「安保関連法は戦争の勃発

を未然に防止するための抑止力を高めることが目的」

「戦争法を許さない」の声が上がっていた事実を指摘。それまでやじを飛ばしていた公明党都議は黙り込んでしまいました。

曾根氏は、圧倒的多数の憲法学者や歴代の内閣法制局長官経験者も安保法制を憲法違反だと表明している」と指摘。「日本共産党は、安保法制・戦争法廃止と立憲主義の回復をめざし、野

党と市民のみならず、野に、大いに奮闘する」と述べました。